

岩手郡医報

平成2年3月 No.28

編集 発行

岩手郡医師会

題字 零石町高橋孝先生



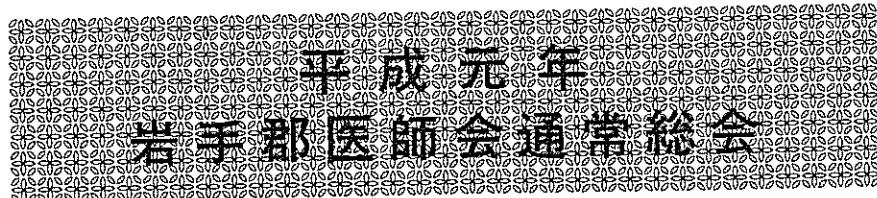
北緯40度、岩手県北西部の八幡平に隣接した標高1300m～1500mの山々から連なる安比高原。今シーズンはプールやアスレチックルームを備えた18階建ての「ホテル安比グランド・タワー」がオープン。毎年変貌を遂げるゲレンデはセカンド安比に約2.5kmの新コースを増設し、11月下旬から5月上旬までのロングシーズン、スキーが存分に楽しめます。

日本初の『8人乗りゴンドラリフト』高速『4人乗りリフト』『ペアリフト』18基、『シュレッピ』3基、『Tバー』2基などの高速リフトが設置されている。スキーセンター内には飲食施設3ヶ所、安比プラザには950席の大食堂が整っており、一流ブランドのレンタルスキーも用意されており、普段着でスキー場に到着しても即変身できるということになります。

(M. S記)

目 次

安比高原スキー場の8人乗りゴンドラ	1	学術講演会	9
平成元年郡医師会通常総会	2	郡医師会忘年会・受章祝賀会	10
産業医部会報告	3	郡医師会役員会	11
有機溶剤健康診断の改正	4	産業廃棄物に思う	西島康之 12
学校医部会報告	5	第7回県医師会親睦スキー大会に参加して	
健康教育委員会	6	上原充郎 13	
広報委員報告	6	おらほの先生	高橋医院の巻 14
平成2年度事業計画	7	ウキウキダンゴ	高橋 孝 15
平成2年度一般会計予算書	7	新入会員自己紹介	16
平成2年度休祭日当番医予算書	8	編集後記	16
医療問題講演会	8		



岩手郡医師会通常総会次第

▼ 日時: 平成 2 年 2 月 3 日 (土) 午後 3:00

場所: 盛岡市大通り ホテル東日本

1、開会の辞

2、会長挨拶

3、議長着席

4、報告

- ① 産業医部会 ② 福祉担当 ③ 学校医部会 ④ 労災部会 ⑤ 勤務医部会 ⑥ 生涯教育委員会 ⑦ 健康教育委員会 ⑧ 保険問題協議会 ⑨ 広報委員

6、議事

第 1 号議案

平成 2 年度岩手郡医師会事業計画(案)について

第 2 号議案

平成 2 年度岩手郡医師会一般会計予算(案)について

第 3 号議案

平成 2 年度岩手郡医師会休祭日当番医予算(案)について

第 4 号議案

任期満了による役員改選について

7、その他

8、閉会の辞

会長挨拶

高橋 牧之介



平成 2 年と新しい暦になり初の総会です。本日はご多忙中のところお集まり下さいます。ありがとうございます。

昨年を振り返ってみると、新年早々昭和天皇が崩御されたことが偲ばれます。そして 1 月 8 日より平成となりました。平成元年の医界は、1 月 1 日から改正所得税法がスタートし、5 段階税制では、5,000 万円を越えるものが適用除外となった。

次に消費税導入を巡って、政界が大きく揺れた

年でもあった。医療費ベースで合計0.76%引き上げられたが、医療機関の窓口では、事務上の繁雑がふえることになり、リクルート事件で竹下内閣は総辞職、宇野内閣も参院選挙で、歴史的大敗をきっし、海部内閣へと引き継がれた。まさに有史以前のことです。また、昨年は、医師過剰問題が取り沙汰された年でもあったが、概して医界に大きな問題はなかった。今年は、平成に改元されて初めての正月であります。先生方も色々様々な思いの中で新しい年を迎えたことでしょうが、平成2年も不透明な、さっぱり明るさを期待出来ない年になるのではないかという気がします。世界の情勢も民主化、自由化の波が中国、天安門広場から、伝染病のようにヨーロッパにまで拡がり、民衆のパワーが社会主義独裁に対して抵抗し、勝利の変革となつて表れたわけです。我が国の政情も参院選の保革逆転があつてからは、様相は、大きく変わつたように思われます。直接の関係はまだないとしても、われわれ医療を取り巻く方向としては、いろいろな法、制度など、本年は医療保障を左右する重要関連法の改正が予想されます。

地域医療計画についても、医療の概念が拡大するとともに、機能分化が進むなかでのシステム化は、重要な課題で、任意的記載事項の面の具体的に実現するための努力が必要である。そして、医療の分化が著しい現実、それぞれの医療機関がどのような機能をもっているかということを分かり易く患者へ情報提供することが、極めて重要なことではないかと思う。

厚生省は、医療法の改正作業を進めているが、

具体的な方向として、「21世紀をめざした今後の医療供給体制の在り方」を発表した。それによると施設類型化の第1として長期療養棟と高次機能病院を位置づけ、広報規制は自主規制を前提として緩和、医療法人は会計面中心に近代化する、在宅医療推進や医療関連ビジネス育成のための法的環境整備などを提示した。今後の成り行きを注目したい。この医療法改正の骨子は、日医の今までの主張をかなり取り入れているのではないかと思います。日医は次期医療法改正をめぐる論議のなかで、老健施設を医療法の傘の下に入れること、60年改正の付則である施設体系の法的設備、医師などの養成のあり方の検討、医療機関の経営基盤の安定化の現実の2点を優先課題として主張してきた。また、施設体系に就いては、まず大学病院の在り方を考えるべきで、有床診療所を病院化する意向にも厳しく反発の姿勢をとってきた。

施設類型化の項では個々の病院の機能分担をはっきりさせるとして、中小病院と診療所には手をつけないことになった。良質な医療供給体制には国民が育っていくものという観点に立って水面上で論議することを期待したいものです。

今年は午年、躍動の年かと思ったら、激動の年だそうで、混乱の多い年という不安な八卦があるが、当たるも八卦当たらぬも八卦と申しますから、1990年代はいづれに致しましても大いに脱皮し、飛躍の時代にしたいものです。

今年も格段のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げるとともに、先生方のご健勝とご隆盛を祈念申し上げます。

○ 産業医部会報告

理 事 西 島 康 之

1、平成元年度12月19日八幡平ライジングサンホテルにおいて、松尾村・西根町地区の各事業所の衛生管理者を対象に『労働衛生管理者におけるメンタルヘルス・職場における心の

健康づくり』と題して約1時間講演しました。高橋郡医師会長、及川理事に出席していただき活発なディスカッションもあり盛会裡に終了しました。

2、平成2年1月20日午後3時、県医師会館において幹事会、引き続いて4時より部会と岩

手労働基準局、岩手労働安全協会、岩手予防医学協会等の関係機関との打ち合わせ会が行なわれました。部会では次回の産業医リフレッシャー研修会及び平成2年度優良事業所視察について、関係機関との打ち合わせ会では一般健康診断項目の改正について岩手労働基準局より報告がありました。（岩手郡医師会総会で差し上げたパンフレット参照）※健康診

断改正のあらましは岩手郡医報N°.27 6ページに一部掲載していますが、有機溶剤中毒及び鉛中毒の予防規則を追加掲載します。

3、医療廃棄物の適正処理

厚生省よりガイドラインが出ています。それにはあった処理をお願いします。

（岩手郡医師会総会で差し上げたパンフレット参照）

○ 有機溶剤健康診断の改正

（有機溶剤中毒予防規則）

有機溶剤中毒予防規則第29条で、有機溶剤業務に常時従事する労働者には、雇入れの際、配置替えの際及びその後6月以内ごとに1回定期に健康診断を行なうことが義務づけられています。改正後の項目はつぎのとおりです。

- 1 業務の経歴の調査
- 2 有機溶剤による健康障害の既往歴の有無の検査
有機溶剤による自覚症状または他覚症状の既往歴の有無の検査
有機溶剤による4及び6～8、10～13に掲げる既往の異常所見の有無の検査
- 3 自覚症状又は他覚症状の有無の検査
(下欄1～22)
- 4 尿中の蛋白の有無の検査
- 5 尿中の有機溶剤の代謝物の量の検査
- 6 貧血検査（血色素量、白血球数）
- 7 肝機能検査（GOT、GDP、r-GTP）
- 8 眼底検査
(医師が必要と認めた場合行なう項目)
- 9 作業条件の調査
- 10 貧血検査
- 11 肝機能検査
- 12 腎機能検査
(尿中の蛋白の有無の検査を除く)
- 13 神経内科学的検査

○ 有機溶剤による自覚症状又は多角他覚症状については、医師が次の項目をチェックしなければなりません。

- | | | | | |
|---------|------------------|--------------|-------------|---------|
| 1.頭重 | 2.頭痛 | 3.めまい | 4.恶心 | 5.嘔吐 |
| 6.食欲不振 | 7.腹痛 | 8.体重減少 | 9.心悸亢進 | |
| 10.不眠 | 11.不安感 | 12.焦燥感 | 13.集中力の低下 | |
| 14.振戦 | 15.上気道又は刺激症状 | 16.皮膚又は粘膜の異常 | 17.四肢末端部の疼痛 | 18.知覚異常 |
| 19.握力減退 | 20.膝蓋腱・アキレス腱反射異常 | | | |
| 21.視力低下 | 22.その他 | | | |

○ 5、6、7、8の検査は指定の有機溶剤について行なうこととされています。

（指定の有機溶剤）

有機溶剤の種類	5代謝物	6貧	7肝機能	8腎
キシレン、スチレン、1-トトリクロルエタン	●			
トルエン、ノルマルヘキサン				
N-N-ジメチルホルムアミド、テトラクロロエチレン	●		●	
トリクロロエチレン				
エチレングリコールモノエチルエーテル、				
エチレングリコールモノブチルエーテル、		●		
エチレングリコールモノメチルエーテル				
オルト-ジクロルベンゼン、クレゾール、				
クロルベンゼン、クロロホルム、四塩化炭素、				
1-4ジオキサン、1-2-ジクロルエチル、1-2-ジクロロエチレン、1-1-2-2-テトラクロロエタン				●
二硫化炭素				●

- 尿中の有機溶剤の代謝物の量の検査の内容は、次のとおりです。

(代謝物の検査)

有機溶剤の種類	検査内容
キシレン	尿中のメチル馬尿酸
N・N-ジメチルホルムアミド	尿中のN-メチルホルムアミド
ステレン	尿中のマンデル酸
テトラクロルエチレン	尿中のトリクロロ酢酸又は総三塩化物
トライクロロエタン	尿中のトリクロロ酢酸又は総三塩化物
トリクロロエチレン	尿中のトリクロロ酢酸又は総三塩化物
トルエン	尿中の馬尿酸
フルマルヘキサン	尿中の2-5-ヘキサンジオン

- 尿中の有機溶剤の代謝物の量の検査は、前回（6月以内）の健康診断において当該健診項目が行なわれており、医師が認めるときは省略することができます。

鉛健康診断の改正

(鉛中毒予防規則)

鉛中毒予防規則第53条で、鉛業務に常時従事する労働者には、雇入れの際、配置替えの際及びその後6月以内ごとに1回定期に健康診断を行なうことが原則として義務づけられています。改正後の項目は次のとおりです。

- 1 業務の経歴の調査
- 2 鉛による自覚症状及び他覚症状の既往歴の有無の調査
血液中の鉛の量の検査及び尿中のデルタアルミニレブリン酸の量の検査の既往検査結果の調査
- 3 自覚症状又は他覚症状の有無の調査
(下欄1～10)
- 4 血液中の鉛の量の検査
- 5 尿中のデルタアルミニレブリン酸の量の検査
(医師が必要と認めた場合に行なう検査項目)
- 6 作業条件の調査
- 7 貧血調査
- 8 赤血球中のプロトポルフィリンの量の検査
- 9 神経内科学的検査

- 鉛による自覚症状又は他覚症状については、医師が次の項目をチェックしなければなりません。

1. 食欲不振、便秘、腹部不快感、腹部の圧痛等の消化器症状
2. 四肢の伸筋麻痺又は知覚異常等の末梢神経症状
3. 僕節痛
4. 筋肉痛
5. 苍白
6. 易疲労感
7. 倦怠感
8. 困眠障害
9. 焦燥感
10. その他

○ 血液中の鉛の量の検査及び尿中のデルタアルミニレブリン酸の量の検査は、前回（6月以内）の健康診断において当該項目が行なわれており、医師が必要ないと認めるときは省略することができます。

健康診断改正についての質問などは、最寄りの労働基準局又は労働基準監督署へお問い合わせ下さい。

○ 学校医部会報告

理 事 高 橋 孝

平成2年度第一回学校医部会幹事会は平成2年1月13日（土）午後3時より岩手県医師会館において開かれました。平成2年度の事業計画として下記の事項が決定した。

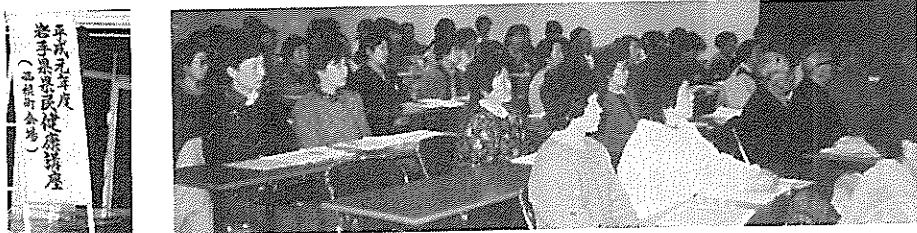
- (1) 岩手県学校保健、学校医大会の開催
- (2) 各種検診活動の推進
- (3) 学校保健関係団体との連携
- (4) 小児成人病対策の検討
- (5) 児童生徒の今日的問題の検討、(精神衛生
思春期、スポーツ等)

以上であります、当医師会においてもこの事業計画に則り現在迄活動して参りました。但し岩手郡は広い地域でもあり学校も100校を数えます。他医師会と異質のものがあり、よって私共は岩手郡学校保健会の設立に力を注いで参りまして、活動を始めてより3年目になります。今後は各町村学校保健会、岩手郡学校保健会を軸にして、学校保健活動を推進したいものだと思っております。心臓、尿、貧血検査は既に行なわれておりますが、学童の成人病検診についてはまだ全町村には行なわれておりませんので、実施について各町村学校医の先生方におかれましては行政に働きかけていただきたいものと感じております。これら心、腎検診、貧血検診、成人病検診の結果については、学校医、学校長、養護教諭が一同に会し、町村学校保健会が中心となり検診し、さらに年2度開催される岩手郡

学校保健研修会の場において比較検討され、この結果が学校現場において学童の保健増進又は予防活動に繁栄されればと念じております。一方郡としてみれば広い地域ではあります、町村単位で見ますと小さく、学校と学校医の間の緻密なる連絡も可能であります。他の利を生かし、学童の精神衛生、特に登校拒否児等の疾病発症時に早期に病状を把握し

学校と連絡をとり、これらの問題解決も可能なるものと思考いたします。平成2年度は、学校医研修会、各町村地域保健懇談会、郡学校保健会等に予算も計上されましたので各町村の先生方に学校保健に対する御理解と御協力をお願ひいたします。尚学校医報酬の算定基準、心臓病患者管理指導のしおり（学校、校医用）等御入用の先生は御一報ください。

○ 健康教育委員会 理事 八角 正司



平成元年度 岩手県民健康講座カリキュラム (岩手郡西根町会場)

主催 岩手県・岩手県医師会
担当 岩手県医師会
後援 西根町
場所 西根町民センター
日時 平成2年1月24日～
2月14日の4日間

回	開催年月日	場 所	講 座 内 容	時 間	担当講師	所 属
1	2. 1. 24 ㈬	西根町民 センター	開 講 式 1 高齢者社会と健康 2 子宮癌はこわくない	13:00～13:30 13:30～14:20 14:20～15:00	幸岐 梶接 鳴 信	岩手保健所長 岩手県医師会長 西根町長 岩手保健所長 鳴 医院
2	2. 1. 31 ㈬	"	3 日常生活に起りうる外科的応急処置 4 腰痛について 5 在宅医療について	13:00～13:40 13:40～14:20 14:20～15:00	瓜田 明義 森 茂雄 高橋牧之介	瓜田外科胃肠科医院 森 整形外科医院 岩手県医師会長
3	2. 2. 7 ㈬	"	6 歯と健康 7 子供の身近な病気について 8 在宅ケアについて (西根町の機能訓練事業を中心)に	13:00～13:40 13:40～14:20 14:20～15:00	佐藤 尚正 伊藤 伸郎 藤村 裕子	佐藤歯科医院 伊藤小児科医院 西根町保健婦
4	2. 2. 14 ㈬	"	9 成人病の予防と対策 10 質疑応答 閉 講 式 終了証書授与式	14:00～14:40 14:40～15:20 15:20～	上田 靖彦 担当講師 全員	西根病院

※尚、詳細及びアンケート、御意見御希望などについては紙面の都合により次号に掲載予定です。

○ 広報委員報告

理 事 島 信

郡医報は3月に25号、7月に26号、10月に27号を発行した。

各号とも原稿を特に依頼したり、原稿の集まりが悪く苦慮しています。編集作業に入ってからは約1ヶ月前後印刷などに日数を要するためどうしても2～3ヶ月或いは3～4ヶ月に1回となることもある。

28号については新しく「おらほの先生」というタイトルで、医院の職員から見た院長先生の人となりを記事にしてもらう予定です。差し当たって第1回目は郡医師会長の高橋医院さんを予定しております。御協力よろしくお願いします。

県医師会、郡医師会の広報担当者の集まりは2月8日に予定されています。

平成2年度岩手郡医会事業計画(案)

二十一世紀に向けての国民医療の動向は、不穏な兆候を感じさせる要因が多いと考えられる。平成2年を迎へ厚生施策の医療費抑制対策はさらに、地域医療計画の策定、医療と税制改革との関連対策を初めとした新たな局面を迎えようとしている。今後は更に医療法の改正、国民健康保険法の改正、医療保険制度一本化の実現、老人保健法の改正、出来高払い制対策医療保障を左右する重要関連法の改正が予想される。

わが国は高齢化社会の急速な進展を背景に、高齢者保健福祉推進戦略、地域保健医療推進対策、在宅医療推進事業など医療、保健、福祉の諸施設の総合的展開を図るべく国民医療体制の創造にむかって進んでいる。これ等のことは医師会が当面する大きな課題である。

この背景のもとに、当医師会は医の大義を守り、団結を強固にし、愛情と信念を持って、地域住民の健康確保のため会員各位の英知を結集し、医師としての責務の活性化に努力するものとする。

次の事項を留意し重点事業とする

- 1、医の倫理の高揚と医療秩序の確立
- 2、県医師会の事業への全面協力
- 3、有効なる地域医療保健事業の推進
- 4、会員間の福祉(組織力)の強化
- 5、医政の強化
- 6、生涯教育の推進
- 7、医療経営基盤の確立
- 8、地域住民健康教育の充実
- 9、広報活動の積極的展開
- 10、医事紛争防止への対策強化

平成2年度・一般会計予算書(案)

1. 収入の部		平成2年4月1日 至 平成3年3月31日	社団法人 岩手郡医師会 単位：円
科 目	金 額	摘要	要
繰 越 金 会 費	40,000 4,640,000	前年度より繰越 A 会 員 3,800,000 (@95,000×40人) B 会 員 840,000 (@35,000×24人)	
補 助 金	85,000	地域 医 療 30,000 学 校 医 55,000	
雜 収 入	5,000	預 金 利 息	
合 计	4,770,000		

2. 支出の部		単位：円	
科 目	金 額	摘要	要
(事 業 費) 会 議 費	(4,110,000) 1,500,000	總 会 2回 700,000 理 事 会 6回 500,000 役 員 会 2回 200,000 県 医 総 会 1回 100,000 医学講演会・懇談会 300,000	
生 涯 教 育 費	550,000	学校医研修会 100,000 スポーツ医学研修会 100,000 そ の 他 50,000	
地 域 保 健	400,000	各町村の地域保健懇談会 300,000 他都市との懇談会 100,000	
広 報 発 行 費	450,000	印 刷 費 6回 300,000 発 送 費 6回 50,000 編 集 会 費 50,000 雜 費 50,000	
旅 術 費	320,000		
交際費	650,000		
慶弔見舞金	60,000		
広 告 費	80,000		
雜 費	50,000		
予 備 費	50,000		
(事 務 費) 事 務 費	(660,000) 660,000	事 務 連絡費 80,000 通 信 費 100,000 消 耗 品 費 100,000 印 刷 費 80,000 リ 一 ス 費 120,000 事 務 处 理 費 120,000 雜 費 60,000	
合 计	4,770,000		

平成2年度・休祭日当番医予算書(案)

内 平成2年4月1日
至 平成3年3月31日

社団法人 岩手郡医師会
単位：円

<1. 収入の部>

科 目	金 額	摘要	要
繰 越 金	1,000	前年度より繰越	
補 助 金	3,504,000		
雜 収 入	5,000	預金利息	
合 計	3,510,000		

<2. 支部の部>

科 目	金 額	摘要	要
報 告 償 費	2,620,000	健康教育費 救急対策費 県医野球大会 県医ゴルフ大会 県医海釣り大会 県医スキー大会 県医開基大会 郡学校保健会 合同研修費 厚生対策費	640,000 (@10,000×64人) 350,000 400,000 50,000 30,000 30,000 20,000 300,000 600,000 200,000
需 要 費	350,000	会議費 3回 通信費・消耗品費	300,000 50,000
旅 行 費	300,000	三支部 通 信 費	60,000 (@20,000×3支部) 30,000
務 務 費	90,000		
予 備 費	150,000		
合 計	3,510,000		

第4号議案
任期満了による役員の改正について

審議委員長 根本先生より発表

会長：高橋牧之介

副会長：佐藤郁郎・上田靖彦・高橋 孝

理事長：嶋 信・瓜田明義・及川忠人・坂

井博毅・根本忠夫・八角正司・西

島康之・上原充郎・佐渡豊

鑑事：平野修一・篠村達雅・佐々木久夫

議長：和田栄吉

副議長：高橋 司

代議員：西島康之・根本忠夫

予備代議員：杉本圭士郎・佐々木久夫

裁判委員：近藤純造

国保委員：和田栄吉

県医理事：高橋牧之介

◎ 医療問題講演会

○ 日 時：平成元年11月11日(土)

午後3時より

○ 場 所：岩手県医師会館3階

○ 講 演：

1) 医事紛争の実態について

岩手県医師会医事紛争対策委員長
石川 育成 先生

「医療事故」「医療過誤」の意義から、医師に課せられる義務、注意義務、説明、承諾の義務、(すなわち説明と同意について)、危険予見の義務などについて触れ、ガンの誤診による死亡例などの症例を多数例詳解し、会員への注意を喚起したのち、ポイントとしては次の点を強調された。

① 確かな病診、診診、病病の連携が必要であること。

② 前医批判は罪悪である。

③ 守備範囲を守り、餅は餅屋で！

④ 患者を必要以上に抑えすぎないこと。
早目の対応が必要。

⑤ 信頼関係は説明と対話から。

2) 保険問題集団指導

岩手県生活福祉部保険課

指導医療官 白倉 義則 先生

医療事務指導官 山本 一廣 先生

本指導は社会保険診療の質的向上と適正化を計るため、社会保険医療担当者指導大綱に基づき行なわれるものである。

次年の点数改正について触れたあと、国民

医療費の動向についても述べられた。

個別指導は本年は32医療機関について行なった。これは輪番制であり、過去に指導を受けたことがない所、過去に再指導を必要と思われる所、請求点数の高い或は低い医療機関、他の健保組合からのクレームによるものなど

◎ 学術講演会

○ 日時：平成元年11月25日(土)午後3時より

○ 場所：

松尾村八幡平温泉郷八幡平ロイヤルホテル

○ 講 演：

1)「在宅医療」について

岩手郡医師会長 高橋 牧之介



先に平成元年9月16日、青森県医師会担当による東北医師連合会総会並びに学術大会において、「岩手県における在宅医療の課題」として発表されたものを加味しながら、改めて次の

様な内容について解説した。

- ① なぜ在宅医療が必要なのか
- ② 「在宅医療」か「在宅ケア」か
- ③ 在宅医療の対象となる患者
- ④ 在宅医療を可能にする患者側の条件
- ⑤ 在宅医療に関する医療上の問題
- ⑥ 患者を支援するサービス体制
- ⑦ 法律的な問題
- ⑧ 経済的な問題
- ⑨ 産業界の問題
- ⑩ システムの問題

で、厚生省の監査は奇数年に行なわれている。

その他カルテについてや注射、内服薬、外用剤など症例について解説が行なわれた。尚講演会終了後県医師会館4階ロビーにおいて懇親会が行なわれた。

2) 特別講演：

「これからのお年医学」

岩手医科大学神経内科学教授

東儀 英夫 先生



高齢化社会にむけてからの老年者のいろいろな身体的特徴とか老人性高血圧者の特徴など詳細な臨床データに基いて解説し、からの日常臨床に非常に参考となるお話し

であった。引き続いて同ホテル内で葛巻町の早藤一雄先生の藍綬褒章受賞祝賀会並びに平成元年度岩手郡医師会忘年会を盛大に行なった。

平成元年度 岩手郡医師会忘年会 藍綬褒章受章記念祝賀会



藍綬褒章受章記

葛巻町 早 藤 一 雄

平成元年10月某日、明日に迫った伴の結婚で、盛岡に出る支度中にお祝い電報が到着、式場に届く筈と考えながら聞いてみると、鈴木元総理からで、文面は本日午前中の閣議で受賞が正式に決定になりまことにめでたい旨の長文であった。

私の頭中はここ数日結婚式のことでいっぱいであったから、もう一つかと感謝する余裕もなく着替えをしていると、配達員が休む暇もなく来宅し始めたのを後にして出かけ、翌々日の夜帰宅。電報は束になって居り、その後も数日続いた。配達員の方に大変御苦労を掛けたようである。県内の全衆、参議院議員、大浜参議院議院、医系議員、日医会長、宮城、岩手の県知事、副知事、母校の高校長、同窓会長、医大の教授の方々、其の他、多数の方々から頂き、余りの多さにどの様に感謝申し上げたら良いかと困惑する。有難い事である。

春の叙勳の後、間もなくの頃から、役所関係からの調査、問い合わせなどが町役場にあったようで、なんとなく以前に県知事表彰を頂いたときの感触があり、何か変だなと感じていたが町役場担当課長の来訪あり、これまでの経過の

説明と受賞の諾否について確認をされる。薄々予告が9月末頃にあったものの、正式に云われて少し迷った。然し事態は今後の叙勳受賞候補者の選定に、また推薦担当者にも支障が出ると説明を受け受賞を決意する。

その後、間もなく厚生省より受賞の日程、その他の案内書が、岩手県から文書と共に到着、家内を同伴とのことであった。

受賞確定後一番大変だったのは新聞社、テレビのインタビューで、共同通信社、全国紙、地方紙など、七、八社の会見取材で、診療に支障にならぬように午後にして貰ったが、同様な内容の発言をしたにもかかわらず、各記者のまとめ方が夫々少しづつとなる表現で掲載され、又全国版に載せられた事であるが、約1週間今日は何社等と落ち着かず閉口した次第。交通事情の好転により実質的な僻地が少なくなったせいか、全社好意的な内容で有難い事であった。

11月15日 前夜上京。何時もより早く起床させられ、家内のしたくに付き合い、午前10時に県東京事務所へ、所長、行政課長、担当職員と暫く会談し、担当者に付き添われ車で厚生省へ。

特設受付には正装の御夫婦組が多数居られ多

少心細かった小生も少々安堵する。厚生省係員の案内で所定席に着席し係官の説明があり授与式が開始。大臣祝辞、次に受賞者席に来られ褒章文を読み上げ褒章を胸に着用して頂く。小憩後バスにて皇居に送られテレビで見覚えのある広場に到着、車内で暫時待期中に面会人ありと呼ばれ下車してみると宮内庁に勤務の親類が出迎えてくれ、伴の結婚式に来席して頂いたお礼等の雑談す。

定刻となり宮殿の南溜りを経て春秋の間に導かれ、係官の説明のあと、間もなく天皇陛下が御出ましになり我々の代表が御礼の言上を申し上げると労いと励ましのお言葉を賜った。一同感激して退出。其の後約一時間、皇居内の三所、陛下の御研究所、宮殿内の庭園を拝観。

バスにて坂下門より厚生省へ帰る。先の県の職員のかたが出迎えられ車でホテルまで送っていただき、誠に有難く記念すべき日であったが少々疲れ、ティルームでのコーヒーが大変旨かった。

今回の受賞は私には無縁の事と考えて居た小生にとって思いがけないことであったし、又次第にこれは大変なことになったという実感とともに、小生のようなものが頂いたことは、地元の方々、周囲の有縁の多数の方々、関係役所の方々の御支持、御指導を頂いた賜物であり、誠に有難く、幸せなことであり、今後も田舎医師として笑われない様に過ごしたいものと決心している所である。

粗文多謝

● 郡 医 師 会 役 員 会 ●

▽ 日 時：平成 1 年 12 月 19 日（土）午後 6 時
場 所：盛岡市 ホテル東日本

出席者：高橋牧之介、高橋孝、上田靖彦、西島康之、瓜田明義、坂井博毅、根本忠夫、及川忠人、篠村達雅、平野修一、嶋信、佐々木久夫の各理事、監事。

《報 告》

・新入会員

八角病院へ 鈴木先生、鹿内先生
東八幡平病院へ 広岡先生

現会員は A 会員 40 名、 B 会員 24 名、 64 名となる

・医師国保代議員推せんの件

現在の和田栄吉先生再任

・社会保険指導者講習会伝達会

平成 2 年 1 月 21 日（日）県医師会館にて開催される。

・医薬品副作用モニター制度への参加診療所推せんについて

県内 15 施設のうち内科系 10ヶ所、外科系 5ヶ所の指定があり、当岩手郡からは外科系施設として岩手町坂井医院が推せんされた。

・郡医師会総会開催予定について

次年度は役員の改選期もあり、次総会にて決定の予定。
期日は 1 月 27 日か 2 月 3 日の予定である。

▽ 日 時：平成 2 年 1 月 25 日(木)午後 6 時

場 所：盛岡市 一力寿司

出席者：高橋牧之介、高橋孝、上田靖彦、佐藤郁郎、西島康之、八角正司、坂井博毅、瓜田明義、根本忠夫、及川忠人、嶋信、佐渡豊、平野修一、篠村達雅の各理事、監事。

《報 告》

・郡医師会総会は平成 2 年 2 月 3 日（土）盛岡市ホテル東日本において開催。

・MMRワクチンは平成元年12月21日以降は見合わせる。但し保護者から申し出があった場合に限り、麻しんの定期予防接種時にMMRワクチンを使用すること。という通達が厚生省よりありました。

・県当局はリハビリテーション医療センターの設置を岩手郡に予定している。この中には外来部門も予定されている。

産業廃棄物に思う

産業医部会 西 島 康 之

今、地球規模で環境問題が大いに論じられています。地球上の人類の活動は果てしなく膨張を続けていますが、その一方でマイナス面での影響は深刻であり、フロンガスによるオゾン層の破壊、二酸化炭素の濃度上昇による地球の温暖化、気象や海流の異常化、原生林の伐採による砂漠化、酸性雨による森林や湖沼の被害拡大など自然破壊が急速に進んでいます。

先進諸国のレッド・データ（野生生物調査）では、各種の動植物の大量死滅が報告されています。しかも、その破壊は人間の手によるものであり、この事実は種々の生物の生命の根源である地球そのものの命さえ脅かしております。人類は今、こぞって地球の生命の危機を知るべきであり、人間の手による地球破壊を真剣になって考えるべきときであります。

目を日本に移しますと各地方で豊かな自然の荒廃ぶりが伝えられる今、恵まれた風土の岩手も決してその例外ではなく、県環境白書によれば、生活環境は概ね良好となっているものの、市街地を流れる河川は生活排水で汚濁され、また、車社会によっての大気汚染、騒音公害等が増加しているという現状であります。さらに開発事業団による原生林の伐採等の環境破壊が心配されています。

最近、全国的に問題になっているのが産業廃棄物による地下水汚染・大気汚染であります。首都圏において産業廃棄物最終処分場の用地確保が難しくなり、東北地方にその建設を求めてきています。

現に葛巻町も一昨年からこの問題に直面しています。葛巻町の立地条件は厳しいといえ豊かな自然に恵まれ、多くの先人の努力によって酪農と林業を基幹とする産業を発展させてきました。産業廃棄物最終処分場が当町に設置された場合、将来地下水汚染・大気汚染など生活環境に悪影響をもたらす恐れがあり、町民はもち

ろんのこと青森県八戸市に注ぐ馬淵川流域住民の健康や生活に重大な影響を及ぼすことが心配されます。二十世紀末に生きる私どもは、かつてないほどの危機に直面していると言えましょう。このような危機状態を前にして私ども葛巻町医師団は、自分たちの環境は自分たちで守るという気概をもって産業廃棄物持込みの反対運動を粘り強く、また、息長く続けていかなければならないと考えていますが、産業廃棄物の問題は、一地方自治体のみの問題ではなく国政の場で真剣に取り組むべきものであると思います。

また、地球環境の問題は、世界の国々がもっともっと連携強調し、全世界的・全人類的視野のもと解決へ向け協力に運動を展開していくなければならないと思います。そしてこの現実は、経済大国・日本として、また、大企業の大きな責務であると考えます。

人類が自然を保護していると思うのは、すごい自惚れである。

自然が人間を含めた生物を保護しているのだ。人間が自然を破壊するのは、親殺しと同じである。

NHK「南米失楽の500年」より

第7回岩手県医師会親睦スキー大会に参加して

零石町 上原充郎

ゼッケン二十七番スタートします。

五、四、三、スタート係の秒読みがはじまる。緊張に胸が高鳴る！目の前に広がる真白いゲレンデに赤と青のポールが交互に点々と続く。頭の中は、自分のスキー以外何も無い。

きのうまでの練習と、きょうのインスペクションを頭の中でイメージする。

たった五秒の空白だけど、長い長い五秒間だ。一月二十八日、第七回岩手県医師会親睦スキー大会が零石スキー場で行なわれた。紫波郡医師会主管のとてもすばらしい大会運営であり、小早川会長を実行委員長とし、斎藤 裕先生の陣頭指揮により会員一同の結束の固さを感じさせられた大会だった。

絶好のスキー日和に、八時半に開会式が予定通り行なわれ、箱石 勝見先生のユーモア溢れる選手宣誓で参加四十六名の勝算を胸にクリスマルコースへと向かった。コースはインターラベンスキー学校のスタッフにより整然と整備され、開会を今やおそしとまっていた。

競技はポールセットによる大回転タイムレースであり、各自が二回滑走し、二回の合計タイムで競われた。

クラス分けは、熟年の部、成年の部、青年の部、レディースの部、小学生高学年、低学年の部、職員の部である。

スタートは熟年組より順次行なわれた。

コースは大変なだらかで、平均斜度十五度位長さ五百メートル位である。

世界大会を彷彿させるように、矢のように速く滑る人、ルンルン気分で和気藹藹と滑る人、おっかなびっくりで滑る人、転倒する人。参加者全員が各自の滑りを楽しんだように思われる。競

技は十二時で終了。

成績発表までの間、クラブハウスで豪華な楽しい懇親の昼食会、バイキングスタイルで、ビールやジュースを飲みながら、競技の話にはなをさせながら懇親を深めた。

三浦県医師会長の閉会の御挨拶をいただき賞典の授与が行なわれた。

各クラスとも、優勝、準優勝、一位、二位、三位の順で授与された。

入賞に顔をほころばす人、来年度の健闘を秘かに胸に秘める人、三浦県医師会長のユーモア溢れる賞典授与はすばらしいものであった。

特別賞として、三浦県医師会長、小早川紫波郡医師会長、運営に協力してくださった県医師会の事務局の方々にメダルが授与された

また参加者全員においしい筋子、またはクリックワックスがおくられ、閉会式は終了した。希望者（十四名）はスキーレッスンを受け、また、それぞれ昼食後のスキーを楽しんだ。

二、一、ゴー、ゴールをめざして、矢のようにな。

私はゴールをめざしてスタートした。

おらほの先生

滝沢村 高橋医院の巻

ある医師会報に「うちのセンセイ」というコーナーがあり、普段接している職員の皆さんのが院長先生の人となりを紹介するというものです。いろいろな面から忙しい先生的一面、こんなことがあった、あんなことがあった、院内での忘年会或は旅行のときの思い出などを書きつづっていただきたいと企画しました。第一回目は郡医師会長の高橋医院にお願いしました。わが岩手郡医報はタイトルを『おらほの先生』としました。

“ウォッホホ～ン”大きな咳（？）とともに院長のおでましです。泥棒までもびっくりし、なにもとらずにげたという曰くつきなのです。患者さんには「センセ、かぜうつさんですよ！」と言われ（かぜではないのですが）「ニヤッ」しかしながらこの“合図”的おかげで先生がどこにいらっしゃるのかがわかり、便利といったら申し訳ないでしょうか。

多方面に話題が豊富なので、診療の合間に「あのな、こういう言葉を知っているか？クニサダ教科書に乗っているぞ。しらねってが？辞書引いてみろ。」と、いろいろなことを（ちょっと書きにくい様なこともデス。）御教授頂いています。

お酒の好きな患者さんが来られ「ちょっとぐらいだったら、よがんすが？」と遠慮がちに聞いているのに間髪入れず、「酒、いいよ。酒飲み、飲めなくなると終りなんだから」とOKサインを出す始末です。陰で従業員は、言葉にならず苦笑。

「オレに酒の相談をされると困るんだよなあ。」と院長の弁。まったくその通りです。

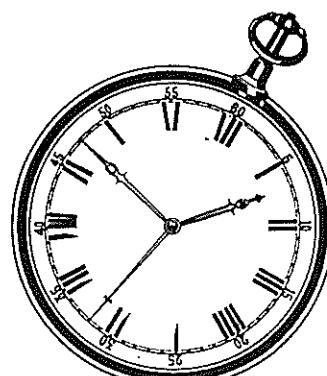
いまだに童心をお持ちの先生は、なにかといたずらをして喜んでおり、その被害者は従業員若しくは患者さん。いえいえ、医師会の方々にも及んでいるのでは？笑いの余韻を残され、いつもの顔に戻すのが大変な毎日ですが、調子に乗っていると、あのトレードマークの大きな声

が院内にひびき、空気もピリッといたします。また1年の締めくくり、忘年会では、“芸のない人は脱げ！”という鉄則のもと、音楽担当（ちなみにキーボード）をなさり、多才能ぶりを発揮。皆笑いころげているのに、一人黙々と笑いもせず役にうちこんでいるのです。その姿が笑いをそそるのもお人柄でしょうか？

オラホの先生、若かりしころは宇津井 健に似てる、と言われたそう。月日は流れるもの。流れず留まっているものか真意のほどは各自で確認を。

御昼夜御多忙な様子、紺屋の白袴とならない様、健康に留意して公私共に頑張っていただきたいと思います。

まだまだ逸話が山程ありますが、院長のクチャミも聞こえてきそうです。これにてペンを置きとうございます。それでは、どんとはれ。



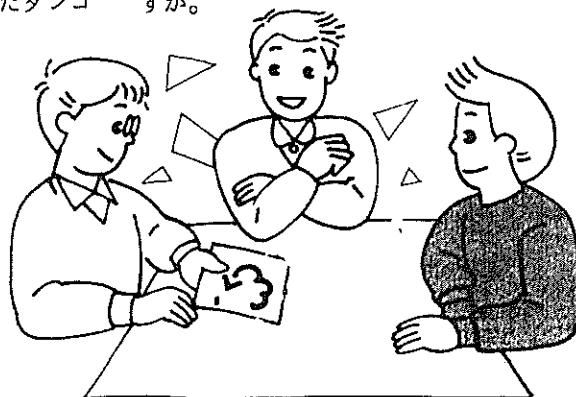
隨 想

ウキウキダンゴ

零石町 高 橋 孝

ある酒席で「タガシ先生、僕ネ、今から15~6年前、岩泉の奥に晩秋か、初冬だったと思うが、御祖父さんが具合が悪いから往診をしてくれるようとの電話で、寒い日だったが歩いて一里位の木の根が道に飛び出している山道を汗を流し流し往診に出かけた。その患者にたどりついた時には、おなかがへるし、疲れるしクタクタだった。患者さんは?と家族に聞くと、部屋の隅に御祖父さんが座っていて、この御祖父さんだと教えられたが、そんなに具合が悪そうに見えなかった。暗いところに目が慣れてくると、囲炉裏に大きな鍋があり、そのなかで白い小さな餅様の塊が湯の中で上がったり下がったり踊っていた。子供達の一人はおいしそうにそれを食べていた。それは何ですか?とついおなかがすいているので尋ねたら、これはウキウキダンゴというものですとの答え、おなかがすいて、とてもおいしそうなので僕にもそれを食わせてくださいょ。と云って食べさせていただいたら、クルミかゴマのタレでとてもおいしく、今迄に味わった事がない位フワフワしておいしかった。勿論御祖父さんは診察して帰ったが、あれなんだべ」と葛巻の西島先生、口をへの字にし、片目を細めて彼得意の顔をして話をする。「アーそれはキミの粉で出来たダンゴ

だべ、座敷ボーキを作るキミの別の品種の実で、俺も一度零石で食べた事がある。あれは本当にうまいものだ。今でも零石にあるかもしれない」と二人で所かまわず大声で話しをしていたら、隣りに上品な中年の御夫婦が座っていて、きれいな御婦人が私どものお話を熱心に聞いていたので、つい私もその粉を探してお届けすることを約束して別れました。零石に帰って次の日から往診に行っては「キミの粉」探しを始めた。2日目に葛根田と云う部落でついにその粉を見つける事が出来た。その家のおばあさん曰く、ウキウキダンゴは本当にうまいもので、俺の娘が県北サ嫁に行っているが、娘の家のほうでは、ゴマ、クルミ、アズキ、味噌、粒アブラ等多くのタレを作りこれをつけて食べているようだ。何を付けて食べてもおいしく、糞タレ、ヨダレ、それにこ馬鹿タレをつけてもおいしいよとヘッテダッケ、と云って、カラカラと笑いながら腰を曲げ曲げ粉を分けてくれた。勿論その粉を御婦人にお届けして喜んでいただいた。あの童話に出てくる猿、犬、雉子もお供したのも無理がないなあと思った。中々今は栽培している農家が少なく、手に入れる事がむづかしいかもしれませんが、皆様も一度味わってみてはいかがですか。



新入会員自己紹介

◎ 氏名：広岡 鈴子 先生（東八幡平病院）
 年齢：67才
 出身地：東京都中央区日本橋新川
 出身校：帝國女子医学薬学専門学校医学科卒
 診療科目：内科
 勤務時期：平成1年12月
 趣味：読書、音楽、映画観賞、ゴルフ
 [ひとこと] 私の好きな言葉
 「何時も喜んでいなさい
 絶えず祈りなさい
 すべての事について感謝しなさい」
 （テサロニケ第一の手紙 5章16～18節）

◎ 氏名：佐藤 公也 先生

（県立沼宮内病院）
 年齢：33才（昭和31年11月24日生）
 出身校：東磐井郡藤沢町
 出身校：県立一関一高→岩手医科大学
 診療科目：内科（消化器・糖尿病）
 勤務時期：平成元年12月
 趣味：無芸大食

◎ 鈴木 俊輔 先生 玉山村八角病院へ
 ◎ 鹿内 俊樹 先生 玉山村八角病院へ

編集後記

◇ 今回は郡医師会の講演会及び総会が行われましたのでそのまとめとなりました。その間、11月中には郡医師会の忘年会も行われました。この時は晴れの全国表彰を受けられた葛巻町の早藤一雄先生の藍綬褒章受賞祝賀会も併せて盛大に行われました。

早藤先生には葛巻町で開業して30年近くが経ち、その間の思い出も数知れずのこと。これからもますますご健在でわれわれ後輩を御指導して下さいますよう御願いします。

◇ 第7回目を迎えた県医師会親睦スキー大会は平成2年1月28日(日)零石スキー場を会場として、紫波郡医師会の主管で行われましたが、当医師会からは零石町の上原充郎先生御一家が参加され、その模様を御寄稿いただきました。好天に恵まれ、楽しい一日であったようです。次回の開催担当を当医師会に依頼があったとのこと。スキー愛好者の皆様の御協力を切望する次第です。

◇ 零石町高橋孝先生より御寄稿いただきました「ウキウキダンゴ」については、早速試食用の粉を御送りいただき試食して見ましたが、とてもおいしいものでした。皆さんも機会がありましたらぜひ試食して見て下さい。

◇ 西島康之先生の「産業廃棄物に思う」は、町内で問題となった処理施設の設置に関する意見でもあろうと思われます。このことに関しては日本医師会雑誌平成2年2月15日号にも詳細に掲載されておりますので参考して下さい。（598ページより）

◇ 今回より登場した「おらほの先生」は、普段接している職員の方々に、多忙な先生の知られざる一面を寄稿していただくのですが、出来れば写真とかイラストも入れてユーモラスに書いていただきたいものと考えます。御協力をお願いします。

(M. S記)